

第2章 試験・検査概況

大 気 係

大気係の業務は、大気中の特定粉じん、二酸化窒素、降下ばいじんの調査、有害大気汚染物質のモニタリング調査、微小粒子状物質成分分析調査、酸性雨調査、放射能の測定（原子力規制委員会委託）、騒音の環境調査等である。

令和4年度に実施した業務内容の概要は以下のとおりである。

1. 大気環境

大気汚染物質による大気環境の状況を把握するために以下の調査を実施した。令和4年度に実施した大気汚染関係の検体数及び項目数を表1、表2に示した。

1) 特定粉じん（アスベスト）の調査

(1) 環境調査

大気中の特定粉じんの環境測定を、住宅地域（天理市）、商業地域（大和高田市）、工業地域（大和郡山市）、旧アスベスト製品取扱工場周辺（王寺町、斑鳩町）の計5箇所まで4回（季節毎）行った（60検体）。

(2) 発生源調査

解体作業等の現場の調査はなかった。

2) 大気汚染状況（簡易法による二酸化窒素（NO₂）等）の調査

大気汚染の常時監視を補完するための調査で、トリエタノールアミン円筒ろ紙法（TEA法）によるNO₂等の測定を、一般環境（天理市、桜井市）と沿道（橿原市）の3地点について毎月行った（35検体）。

3) 大気汚染状況（降下ばいじん量）の調査

桜井市において、簡易デポジットゲージ法により、降下ばいじん量の測定を毎月行った（12検体）。

4) 有害大気汚染物質調査

(1) 優先取組物質【VOCs】の測定

テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼン等の11物質を、一般環境（天理市）、沿道（橿原市）、発生源周辺（大和郡山市）の3地点でキャニスター採取、GC/MS法で毎月測定した（84検体）。

また、酸化エチレンを一般環境（天理市）、沿道（橿原市）の2地点で捕集管採取、GC/MS法で毎月測定した（72検体）。

(2) 優先取組物質【アルデヒド類】の測定

ホルムアルデヒド、アセトアルデヒドの2物質を一般環境（天理市）、沿道（橿原市）の2地点で捕集管採取、HPLC法で毎月測定した（72検体）。

表1 令和4年度 大気汚染測定一覧表(検体数)

業務区分	測定内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
行政測定	特定粉じん	アスベスト	15	0	0	15	0	0	15	0	15	0	0	60	
	簡易法監視	NO ₂	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	35	
	降下ばいじん	ばいじん量	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	有害大気汚染物質	VOC(11)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
		酸化エチレン	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
		アルデヒド(2)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
		水銀	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
		金属(5)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	要監視項目	ベンゾ(α)ピレン	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
		VOC(3)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
	微小粒子状物質	イオン(9)	0	50	0	0	58	0	0	58	0	0	58	0	224
		無機元素成分(29)	0	50	0	0	58	0	0	58	0	0	58	0	224
		炭素成分(8)	0	50	0	0	58	0	0	58	0	0	58	0	224
		質量濃度	0	42	0	0	42	0	0	42	0	0	42	0	168
	酸性雨	イオン等(11)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小計		65	242	50	65	265	50	65	266	50	65	266	50	1,499	
自主検査		0	66	16	20	106	15	22	53	88	22	113	34	555	
合計		65	308	66	85	371	65	87	319	138	87	379	84	2,054	

※有害大気汚染物質、要監視項目及び微小粒子状物質については、二重測定及びブランクを含む。

表2 令和4年度 大気汚染測定一覧表(項目数)

業務区分	測定内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
行政測定	特定粉じん	アスベスト	15	0	0	15	0	0	15	0	0	15	0	0	60
	簡易法監視	NO ₂	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	35
	降下ばいじん	ばいじん量	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	有害大気汚染物質	VOC (11)	77	77	77	77	77	77	77	77	77	77	77	77	924
		酸化エチレン	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
		アルデヒド (2)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
		水銀	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
		金属 (5)	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420
		ベンゾ(α)ピレン	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
	要監視項目	VOC (3)	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
	微小粒子状物質	イオン (9)	0	450	0	0	522	0	0	522	0	0	522	0	2,016
		無機元素成分 (29)	0	1,450	0	0	1,682	0	0	1,682	0	0	1,682	0	6,496
		炭素成分 (8)	0	400	0	0	464	0	0	464	0	0	464	0	1,792
		質量濃度	0	42	0	0	42	0	0	42	0	0	42	0	168
	酸性雨	イオン等 (11)	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
小 計		191	2,518	176	191	2,885	176	191	2,886	176	191	2,886	176	12,643	
自主検査		0	1,517	32	20	1,613	27	1,221	455	2,539	748	3,842	1,156	13,170	
合 計		191	4,035	208	211	4,498	203	1,412	3,341	2,715	939	6,728	1,332	25,813	

VOC (11): アクリロニトリル, 塩化ビニルモノマー, クロロホルム, 1,2-ジクロロエタン, ジクロロメタン, テトラクロロエチレン
トリクロロエチレン, 1,3-ブタジエン, ベンゼン, トルエン, 塩化メチル

アルデヒド (2): ホルムアルデヒド, アセトアルデヒド

金属 (5): ニッケル化合物, ヒ素及びその化合物, ベリリウム及びその化合物, マンガン及びその化合物, クロム及びその化合物

VOC (3): キシレン類, 四塩化炭素, 1,1,1-トリクロロエタン

イオン (9): SO₄²⁻, NO₃⁻, NO₂⁻, Cl⁻, NH₄⁺, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺

無機元素成分 (29): Na, Al, K, Ca, Sc, Ti, V, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, As, Se, Rb, Mo, Sb, Cs, Ba, La, Ce, Sm, Hf, W, Ta, Th, Pb

炭素成分 (8): 有機炭素 (OC1, OC2, OC3, OC4) 元素状炭素 (EC1, EC2, EC3) 炭素補正值 (OCpyro)

イオン等 (11): 降水量, pH, EC, Cl⁻, NO₃⁻, SO₄²⁻, NH₄⁺, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺

(3) 優先取組物質【水銀】の測定

一般環境 (天理市), 沿道 (橿原市), 発生源周辺 (大和郡山市)の 3 地点で捕集管捕集法 (アマルガム捕集管), ダブルアマルガム方式水銀測定装置で毎月測定した (84 検体).

(4) 優先取組物質【金属5物質】の測定

一般環境 (天理市), 沿道 (橿原市), 発生源周辺 (大和郡山市)の 3 地点でハイボリュームエアースンプラー採取, マイクロウェーブ加圧容器法で前処理の後, ICP/MS 法により,毎月測定した (84 検体).

(5) 優先取組物質【ベンゾ(a)ピレン】の測定

一般環境 (天理市), 沿道 (橿原市)の 2 地点でハイボリュームエアースンプラー採取, 超音波抽出, HPLC 法で毎月測定した (72 検体).

5) 要監視項目の測定

一般環境 (天理市) 1 地点でキシレン類, 及びオゾン層破壊物質 (四塩化炭素, 1,1,1-トリクロロエタン) 計 3 項目をキャニスター採取, GC/MS 法で毎月測定した (72 検体).

6) 微小粒子状物質 (PM_{2.5}) の成分分析調査

一般環境 (天理局, 桜井局) 2 地点で成分分析調査を実施した. 調査日は令和4年5月, 8月, 11月, 令和5年2月の4季各14日間であった.

(1) イオン成分の測定

イオン成分 (SO₄²⁻, NO₃⁻, NO₂⁻, Cl⁻, NH₄⁺, Na⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺) 合計9項目を測定した (224 検体).

(2) 無機元素成分の測定

無機元素成分 (Na, Al, K, Ca, Sc, Ti, V, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, As, Se, Rb, Mo, Sb, Cs, Ba, La, Ce, Sm, Hf, W, Ta, Th, Pb) 合計29成分を測定した (224 検体).

(3) 炭素成分の測定

炭素成分 (有機炭素 OC1, OC2, OC3, OC4 元素状炭素 EC1, EC2, EC3 炭素補正值 OCpyro) 合計8成分を測定した (224 検体).

(4) 質量濃度の測定

質量濃度を測定した (168 検体).

7) 酸性雨調査

桜井市において降雨時自動開放型採取装置で採取した雨水について, 降水量, pH, 導電率, イオン成分濃度の測定を毎月行った (12 検体).

8) 化学物質環境汚染実態調査

環境省委託により, 一般環境 (天理局) 1 地点について, 大気試料採取等を実施した.

2. 放射能

原子力規制委員会委託環境放射能水準調査事業として、降水、大気浮遊じん、降下物、蛇口水の放射性核種の分析及び空間放射線量率の測定については年間を通じて462検体の測定を行った。茶葉等の食品試料については8検体の測定を行った。各検体数および項目数については、表3、表4に示した。

また、原子力規制庁が実施した放射能分析確認調査に参加し、分析比較試料9検体の分析を行った。

3. 騒音・振動

(1)自動車騒音測定

道路沿道の自動車騒音について、3地点において24時間の騒音測定を行った。

(2) 発生源周辺調査

事業場周辺の騒音・振動について、騒音、振動の測定はなかった。

(3) 関係機関への騒音計、振動レベル計の貸出

市町村等関係機関に騒音計、振動レベル計等の貸出を行った(15件)。

4. 調査研究等

1) 調査研究

(1) 地方公共団体環境研究機関等と国立環境研究所との第Ⅱ型共同研究

「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」

(2) 奈良県保健研究センター及び景観・環境総合センター調査研究

「奈良県における光化学オキシダント(Ox)生成に寄与する揮発性有機化合物(VOC)調査」(外部評価)

(3) 奈良県保健研究センター及び景観・環境総合センター研究発表会

「奈良県における大気粉じん中ヒ素の形態別測定法の検討及び実態調査」

「奈良県における光化学オキシダント(Ox)生成に寄与する揮発性有機化合物(VOCs)調査について」

2) 事業に係る技術等検討

事業に係る技術等検討として令和4年度は以下の課題について検討を行った。

(1) 県内におけるPM_{2.5}の測定結果考察及び発生源解析について(R1~R3) [村上友規]

(2) PTFE製フィルターを用いた大気粉じん中の重金属類分析手法の検討 [志村優介]

表3 令和4年度 放射能測定一覧表(検体数)

業務区分	測定区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
行政測定	環境放射能	37	40	39	44	44	39	37	35	37	39	35	36	462
	食品放射能	0	0	3	0	1	1	0	0	3	0	0	0	8
	精度管理(その他)	1	0	0	2	4	0	0	0	2	0	0	0	9
	小計	38	40	42	46	49	40	37	35	42	39	35	36	479
	自主検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	38	40	42	46	49	40	37	35	42	39	35	36	479

表4 令和4年度 放射能測定一覧表(項目数)

業務区分	測定区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
行政測定	環境放射能	40	43	45	53	47	45	40	38	43	42	38	42	516
	食品放射能	0	0	9	0	3	3	0	0	9	0	0	0	24
	精度管理(その他)	64	0	0	128	256	0	0	0	128	0	0	0	576
	小計	104	43	54	181	306	48	40	38	180	42	38	42	1,116
	自主検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	104	43	54	181	306	48	40	38	180	42	38	42	1,116

水 質 係

水質係では、水質汚濁防止法に基づく公共用水域の水質常時監視、排水基準監視、地下水の水質常時監視に関する水質検査、廃棄物処理法に基づく一般廃棄物・産業廃棄物施設関係の水質検査、県行政機関依頼の緊急的な水質検査、及び景観・環境総合センター手数料条例に基づく各種の水質検査等を実施した。令和4年度に実施した業務の概要は次のとおりであり、実施した検査の検体数及び項目数を表1、表2に示した。

1. 行政検査

1) 河川水等の検査

(1) 公共用水域の水質監視

公共用水域の水質汚濁状況を常時監視するために、「令和4年度公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づいて大和川、紀の川、淀川の72地点の水質検査を実施した。検査項目は、一般項目として透視度等3項目、生活環境項目としてBOD等10項目、健康項

表1 令和4年度 水質検査一覧表（検体数）

区分			月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
河川水等	行政検査	公共用水域	39	22	32	38	36	39	39	24	32	43	20	35	399	
		行政河川	25	45	7	18	6	6	11	13	4	25	9	26	195	
		小計	64	67	39	56	42	45	50	37	36	68	29	61	594	
	依頼検査	依頼河川	3	11	14	11	5	1	21	11	5	0	35	5	122	
		自主検査	30	225	25	66	259	20	122	79	279	64	148	75	1,392	
小計			97	303	78	133	306	66	193	127	320	132	212	141	2,108	
排水水等	行政検査	立入	3	11	15	15	6	8	10	14	15	18	8	1	124	
		行政放流水	3	15	14	1	24	9	4	16	3	3	16	1	109	
		小計	6	26	29	16	30	17	14	30	18	21	24	2	233	
	依頼検査	放流水	1	8	1	3	0	4	2	8	1	3	0	3	34	
		自主検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計			7	34	30	19	30	21	16	38	19	24	24	5	267	
地下水	行政検査	定期調査	0	0	0	4	7	12	13	2	0	0	0	0	38	
		行政地下水	0	9	2	3	14	0	17	7	11	0	6	0	69	
	自主検査	再調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	17	
		調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計			0	9	2	7	21	12	30	9	11	0	6	17	124	
底質・土壌等	行政検査	19	15	0	0	3	0	0	1	0	1	0	0	39		
	自主検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	小計	19	15	0	0	3	0	0	1	0	1	0	0	39		
ゴルフ場排水	行政検査	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	11		
	依頼検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	小計	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	11		
合計			123	361	110	159	360	110	239	175	350	157	242	163	2,549	

表2 令和4年度 水質検査一覧表（項目数）

区分			月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
河川水等	行政検査	公共用水域	471	573	877	556	1,044	830	824	436	387	572	318	399	7,287	
		行政河川	154	293	35	165	24	33	61	219	23	188	33	136	1,364	
		小計	625	866	912	721	1,068	863	885	655	410	760	351	535	8,651	
	依頼検査	依頼河川	18	100	91	76	58	8	150	100	56	0	207	30	894	
		自主検査	30	618	443	459	654	437	519	493	670	456	517	443	5,739	
小計			673	1,584	1,446	1,256	1,780	1,308	1,554	1,248	1,136	1,216	1,075	1,008	15,284	
排水水等	行政検査	立入	21	61	92	95	36	52	61	75	87	118	48	6	752	
		行政放流水	32	261	265	4	192	52	42	116	22	32	156	5	1,179	
		小計	53	322	357	99	228	104	103	191	109	150	204	11	1,931	
	依頼検査	放流水	6	58	5	23	0	35	11	63	7	22	0	22	252	
		自主検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計			59	380	362	122	228	139	114	254	116	172	204	33	2,183	
地下水	行政検査	定期調査	0	0	0	166	325	544	600	108	0	0	0	0	1,743	
		行政地下水	0	90	10	30	140	0	172	70	11	0	62	0	585	
	自主検査	再調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	51	
		調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計			0	90	10	196	465	544	772	178	11	62	51	2,379		
底質・土壌等	行政検査	418	256	0	0	57	0	0	13	0	13	0	0	757		
	自主検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	小計	418	256	0	0	57	0	0	13	0	13	0	0	757		
ゴルフ場排水	行政検査	0	0	0	0	0	528	0	0	0	0	0	0	528		
	依頼検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	小計	0	0	0	0	0	528	0	0	0	0	0	0	528		
合計			1,150	2,310	1,818	1,574	2,530	2,519	2,440	1,693	1,263	1,401	1,341	1,092	21,131	

目としてカドミウム等 27 項目、特殊項目としてクロム等 6 項目、その他項目として塩化物イオン等 11 項目、要監視項目としてクロロホルム等 26 項目の計 83 項目であった(399 検体, 7,287 項目)。なお、水系別の検体数及び項目数を表 3 に示した。

(2) 行政河川水等の検査

上記の公共用水域の水質監視を除く河川水等の水質検査を、以下のとおり実施した (195 検体, 1,364 項目)。

① 産業廃棄物関係水質検査

産業廃棄物埋立処分施設等の周辺河川水について水質検査を実施した (37 検体, 539 項目)。

② その他の水質検査

魚のへい死、事故等による緊急時の検査及び苦情処理等に関わる検査、その他行政が必要とする検査を実施した(158 検体, 825 項目)。

2) 排水水等の検査

(1) 工場・事業場等立入調査

水質汚濁防止法、県生活環境保全条例等により排水基準が適用される工場・事業場、有害物質を排出するおそれのある工場・事業場及び排出量 50 m³/日未満の小規模事業場の排水等について水質検査を実施した (124 検体, 752 項目)。

(2) 行政排水水等の検査

行政依頼による産業廃棄物埋立処分施設等からの排水について水質検査を実施した (109 検体, 1,179 項目)。

3) 地下水の検査

地下水の水質状況を常時監視するために、「令和 4 年度公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づく 38 地点の定期水質検査を実施した。検査項目は、健康項目としてカドミウム等 27 項目、要監視項目及びその他項目として 23 項目であった (38 検体, 1,743 項目)。

また、全国的に地下水汚染が問題になっている中で、本県における基準超過の地下水について、発生源とその周辺の地下水の追跡調査や、行政上必要な水質検査を実施した (69 検体, 585 項目)。

4) 底質・土壌等の検査

底質・土壌等についての成分等の検査を実施した (39 検体, 757 項目)。

5) ゴルフ場排水の検査

ゴルフ場排水中の農薬検査を実施した (11 検体, 528 項目)。

6) 化学物質環境汚染実態調査に関する検査(4 検体, 1 項目)

環境省委託により大和川本川の 1 地点について、底質 3 検体及び水質 1 検体の試料採取を実施し、うち水

質 1 検体についてはアトルバスタチンの分析を実施した。

2. 依頼検査

景観・環境総合センター手数料条例に基づき、手数料を徴収して以下の検査を実施した。

1) 河川水等の検査

市町村等からの依頼により水質検査を実施した (122 検体, 894 項目)。

2) 排水水等の検査

一般廃棄物処理関連施設等からの依頼により排水の水質検査を実施した (34 検体, 252 項目)。

3. 調査等

1) 調査研究

(1) 国立環境研究所とのII型共同研究

①「公共用水域における有機-無機化学物質まで拡張した生態リスク評価に向けた研究」

医薬品を始めとする生活由来物質による環境汚染リスクを解明するため、これらの生活由来物質を対象に国内をフィールドとした汚染実態、リスク評価をおこなう。令和 4 年度は選定した化学物質群について分析方法の検討を実施した。

②「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」

陸域から海域へ流出するプラスチックの分布実態を把握することが必要である。しかしながら、河川プラスチックごみの実態について調査・研究事例は多くはなく、国内河川における継続した調査を必要としている。令和 4 年度は、選定した地点でのプラスチックごみ実態把握調査を実施した。

③「生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討」

環境省では、現在の化学物質の個別規制では対応できない、未知物質や規制対象外の物質、さらには物質間の複合的な影響等も含めて評価する手法として、生物応答を利用した WET 手法の導入を検討している。

岡崎川における水生生物への影響について、ニセネコゼミジンコを用いるミジンコ繁殖試験法を実施し、本年報に掲載した。

(2) 行政上必要とされる課題研究

「大和川水系岡崎川の水質改善に関する検討」

大和川水系の水質については、大和川本川のBOD値が環境基準を満たすところまで改善されてきているが、未だ水質改善が進んでいない河川(支川)が存在している。

令和 4 年度は、同水系の支川である岡崎川に着目して、岡崎川本川及び流入する水路について、水質・流量測

定を行った。

調査の結果、水質悪化の原因となっている水路を特定し、今後の水質改善の可能性について検討を実施した。

(3) 奈良県保健研究センター及び景観・環境総合センター調査研究

「大和川流域における生活由来化学物質（PPCPs）の残留実態調査」（外部評価）

PPCPs18 物質について、奈良県内大和川水系河川 21 地点及び下水処理施設流入水及び放流水を対象に環境実態調査を行った。結果、下水処理では PPCPs のうち多くの物質がほとんど処理されないこと、河川においては下水道普及率の差等に起因する地域差が見られたこと等といった知見が得られた。

(4) 環境省委託事業 化学物質環境実態調査委託業務（分析法開発調査）

LC-MS/MS によるシプロフロキサシンの分析法開発を実施した（開発した分析法については、環境省が令和 5 年度内に化学物質分析開発調査報告書として公開予定）。

(5) 奈良県保健研究センター及び景観・環境総合センター研究発表会

「環境中のシプロフロキサシンの分析法開発」

「大和川水系における河川マイクロプラスチック汚染の実態調査」

2) 事業に係る技術等検討

事業に係る技術等検討として令和 4 年度は以下の課題について検討を行った。

(1) LC-MS/MS を用いたシプロフロキサシンの分析法開発 [浦西洋輔]

(2) 下水処理施設中の医薬品類存在実態調査 [浦西洋輔]

(3) WET 法による大和川水系岡崎川の生物影響評価について [平井佐紀子]

(4) 大和川水系におけるマイクロプラスチック汚染の実態調査 [平山可奈子]

表 3 令和 4 年度 水系別水質検査検体数および項目数

区分		月												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
大和川	検体数	36	17	16	35	17	16	36	19	17	39	16	19	283
	項目数	435	381	688	519	227	197	787	254	208	526	220	210	4,652
紀の川	検体数	3	4	14	3	6	14	3	4	13	3	4	14	85
	項目数	36	177	165	37	180	165	37	169	155	34	98	165	1,418
淀川	検体数	0	1	2	0	13	9	0	1	2	1	0	2	31
	項目数	0	15	24	0	637	468	0	13	24	12	0	24	1,217
新宮川	検体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	項目数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	検体数	39	22	32	38	36	39	24	32	43	20	35	399	
	項目数	471	573	877	556	1,044	830	824	436	387	572	318	399	7,287